

第82回

共同研テクニカルセミナー

iPS由来心筋細胞・神経細胞の現状及び毒性予測への応用

平成28年 12月7日 水 14:00~16:00*

*講演後の
質疑応答含む

!!申し込み多数のため会場を変更いたしました!! 講義棟 A講堂

第1部 14:00~15:00

「FDSSとヒトiPS細胞由来心筋細胞を利用した心毒性スクリーニングと、海外におけるiPS細胞の利用状況」

講師：久田 素 氏（浜松ホトニクス株式会社）

講師：布村 一人 氏（大阪大学 産学連携本部）

第2部 15:05~15:40

「iPS心神経細胞の最近の状況」

講師：圖子田 康 氏

（セルラー・ダイナミクス・インターナショナル・ジャパン株式会社）

近年、iPS細胞を由来とする臓器細胞の誘導技術は目覚ましく進歩しております。その結果、再生医療だけでなく創薬研究においても新しい技術が開発されております。大阪バイオ・ライフサイエンスイノベーション拠点では、iPS細胞若しくは初代細胞を用いた薬剤由来の心毒性・肝障害予測する実験系に関する情報をH24年度より集めはじめ、一部の系は初期創薬研究支援で活用しております（創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業：PIDS支援メニュー78）。今回のセミナーの前半では、最近新たに構築されたiPS細胞由来心筋細胞とその細胞を評価するために本拠点で行った実験の結果を紹介します。

また、iPS細胞由来神経細胞も最近いくつか販売されております。これらの細胞は、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病を治療薬の探索目的だけでなく、薬剤由来神経毒性予測での活用も大いに期待されます。FDAは昨年の暮れから薬剤由来神経毒性をin vitroで予測する系を検討・構築するコンソーシアムを結成し、今年の春に第1報として「けいれん」を引き起こす可能性のある薬剤のスクリーニング系を紹介しています。現段階ではまだ可能性を示唆する程度ですが、今後さらなる研究が進めば、創薬初期段階でもこれらの細胞を用いた神経毒性予測が可能になると考えられます。セミナーの後半では、iPS細胞由来神経細胞の状況について紹介いたします。ご多忙の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加いただきますようご案内申し上げます。

今回のセミナーは事前予約制になります（申込締め切り12月2日（金））。

申込方法：氏名、所属、職名、連絡先、を明記の上、以下のメール宛にお申込み下さい。
office@ctrlab.med.osaka-u.ac.jp（担当：共同研究実習センター 寺尾, 内線3790）

主催：大阪大学 医学系研究科附属共同研究実習センター、産学連携本部 創薬支援グループ

共催：大阪大学 創薬推進研究拠点、未来戦略機構 第六部門（創薬基盤科学研究部門）、

神戸大学 創薬推進研究拠点、大学院科学技術イノベーション研究科バイオ・環境講座